

神殿講話

173. 5. 21

本日は、下市分教会の風薫る爽やかな 5 月の月次祭、共々に陽気に勇んでつとめさせて頂きまして誠にご同慶に存じます。お話しの当番に当ててくださっておりますのでしばらくの間お付き合いくださいますようお願い申し上げます。

先月末から今月にかけて大型連休がありました。ゴールデンウィークです。連休初日の 4 月 29 日には、全教一斉ひのきしんデーで、この西吉野支部は、県立大淀養護学校の草刈り、草引きのひのきしんをさせていただきました。201 人の方が、参加してくださり、共々に、結構にお借りしている身体に感謝してひのきしんをさせて頂きました。お疲れ様でございました。よく使う「お疲れ様」と言葉ですが、私の友人は、いいことをさせていただいて疲れるのはおかしいというんです。むしろ心が勇まないといけないというんですね。それで彼は「お勇み様」というんです。顔を合わせると合言葉は「お勇み様」です。有難いことですね。身体が元気であることは他には替えがたい喜びです。私は、先月 14 日、脳梗塞発症 10 周年記念日を迎えました。一人で発泡酒で乾杯しました。右半身が痺れて、薬を飲み続けて早や 10 年です。ちょっと身体は不自由ですが、この程度ならまだまだ有難いと思っています。お勇み様です。

さて、今日は、おひとりさまに見る現在夫婦事情とおたすけお願いカードについてお話させていただきます。

皆さんは、このゴールデンウィークにどこかへ行かれたか？海外旅行し

てきましたか？どこへも行ってませんか？

先日、大和高田市に住んでる中学時代の同級生から電話ありまして、5月の連休に、自家用のベントに乗って、夫婦で、4泊5日、東北地方へ旅行に行ってきたそうなんです。東北六県を旅してきたというのです。気候の変化で今年はちょっと寒い日が続いたから、東北は半月遅れで、角館や弘前城の桜は満開で最高にきれいやったとか。十和田湖や、奥入瀬溪谷も良かったとか。マグロで有名な大間へ行ったり、恐山まで回ってきたと言うのです。「へえ～、夫婦で旅行なんて最高に良かったなあ。うらやましいなあ！」とといいますと、「何がいいもんか。急に思い立って行ったもんやから、ホテルや旅館が満室ばかりや」というんです。「夫婦なんやからそんなときはラブホテル使わんかい？」と私がいいますと、「そこも全て満室よ！たまたまに空いてる旅館があったらめちゃくちゃ高いんや。高速道路は安かったけど、泊まり賃と食事代に相当かかったわ」と。それに「出かけから帰って来るまでずっとケンカばかりや。面白いことも何にもなかった。疲れただけやがな。あのな、夫婦で旅行んなんかするもんやないでえ！」とぼやくのです。独り者の私を気遣って言うようにも聞こえません。何も夫婦ケンカするために、秋田や青森、岩手まで行かなくてもいいのに…。ね。本当にご苦労様なことですね。60歳を過ぎた夫婦は、夫婦で旅行をしたがらないのですってね。主人は旅行に行こうと誘うそうですが、奥さんイヤなんですって。なぜかというと、家を出る前から帰って来るまで主人に手がかかってしょうがないんですって。そうですか？だから、夫婦では旅行はおろかどこへも行きたくない。気の合ったお友達と食事や遊びに行く方が楽しいんだそうです。

「亭主元気で留守がいい」とも言えたピッタリのキャッチコピーです。

でも、夫婦で旅行できるなんてとても幸せだと思います。独り者の私にはう

らやましい話です。夫婦の価値観が多少違うのでしょうかね。

私もおひとりさまになって、早いものでもう 4 年近くになります。よその家のことは早いでしょ。私どもの典子さんが亡くなってもう 4 年です。ひょっとしたら、もう皆さんの記憶からは、きれいに消えて無くなっているかもしれません。そのうちに、私もだんだんボケてきて私の記憶からも無くなるかも知れません。まだ、今は覚えてはいますけど。

うちの近所の方で、同じように奥さんに先立たれたご主人で、毎日、お墓参りしている人がいました。近所でも有名な話で夫婦仲が良かったことを近所人たちで囁きあっていたことがありました。その心境は今になったらよく分かりますね。毎日思い出して、他にすることもないのでお墓へ行きたくなるんです。気が休まるんですね。

男はダメですね。偉そうに威張っていても、やはり、奥さんがいてくれてこそナンボのものです。統計によりますと、60 歳を過ぎたご夫婦で、奥さんに先立たれたご主人は、生活にもハリがなくなって、野暮ったくなって、汚くなって、おまけに加齢臭で臭くなって、平均して、6、7 年後に亡くなっているんですってね。それが愛情があった証拠なんですって。と、ゆうよりも奥さんに頼りきりになっていましたからね。平均が 6、7 年なら、私はもう後 2、3 年というところです。しっかり後 2、3 年を生きなければねりませんね。

(笑い)

反対に、ご主人に先立たれた奥さんもやはり、6、7 年で後を追うのかといえは違うんです。ご主人に先立たれ、後に残った奥さんは、最初の半年ぐら

いは愁傷に涙なんか浮かべているんです。「最優秀女優賞は我が家の女房である」なんてね。その内にだんだんとバッチリ髪は染めるは、化粧は濃くなるは、着るものは派手になるは、あちこち食べ歩くはで、1年経てば、晴れて我が天下。それからは、6、7年ではなくて、無制限に無期限に長生きするんですってね。ご主人の保険金や年金がありますから…。子どもたちからも「今まではお父さんで散々苦労してきたんやから…」「好きなように暮らしたらいいんやで～」と、子どもも同情もしてくれますから、毎日がルンルン気分で暮らせるそうですね。

その点、男は、あきませんね。やはり、奥さんがいてくれないと何もできません。先日、テレビを見ていましたら、奥さんがご主人に望むことのベスト3についてやっていました。何だと思いませんか？若い夫婦ではありませんよ。熟年夫婦への質問でした。第3位は、お酒をやめてほしい。第2位は、タバコをやめてほしい。そうですね。最高の家族サービスは禁煙である。といいますから。お道の中にも禁煙のすすめというのがあって、「さあ、にをいがけ…煙草臭いと言われたらどうします？」とか、「さあ、おつとめ…煙草臭いと神さんがいわれてます」とか「かりものの身体を壊してまで吸いたいのですか？」愛煙家には耳が痛いことですね。あはは。そして、妻が夫に望むこと第1位は、なんだと思いませんか？それはなんと「早く死んでほしい」ですって？いやいやビックリしました。なんという世の中なんでしょうか。

他にもあります。イギリスの話しだそうですが、ある女性が新聞の案内欄に「夫求む」という広告を載せたそうです。そうしたら、次の日には、その女性の家の郵便ボックスは手紙でいっぱいになったんですって。手紙にはすべて同じことが書かれていたんです。「私の夫をあげるわ」と。ま、世の中はこ

んなものなんですか？

笑ってなんかいられないほど、夫婦の絆が無くなってきているんですね。

お道を信仰しているお互いは、まさか、ケンカばかりとか？私の夫あげるわとか、ご主人に早く死んでほしいなんて思っていませんね。このお道は夫婦の大切さについて教えてくださっていますからね。夫婦が治まらないのは本当に不幸だと思います。

みかぐらうた第2節「ちょいとはなし 神のいうこときいてくれ 悪しきのことはいわんでな この世の地と天とをかたどりて 夫婦をこしらえきたるでな これはこの世のはじめだし」とあります。この世の始まりは夫婦からだと教えてくださっているんです。そしてその夫婦が元となって本当の神様の思われる陽気ぐらしができるんだと思います。

私はおひとりさまになって、夫婦が大事やと本当に気が付きました。今まで分かっていましたよ。でも、おひとりさまになってこそとても分かることもありますから。客観的に見られますからね。

私は、陽気ぐらしの姿の一つは、目に見える陽気ぐらしは「夫婦が仲良くて長生きすること」だと思っています。大げさに言えば、そのために、出直しては生まれ変わり出直しては生まれ変わりして今、今世、今生を生かさせていただいて、夫婦でいるんだと思います。最近では、80歳、90歳を過ぎてもお元気なご夫婦を多くお見受けします。これこそ陽気ぐらしの姿だと思います。理想の姿だと思います。私も来世こそ、そんな夫婦で長生きできるようにと願っています。

また、夫婦を呼ぶのに、仲良く助け合って寄り添っている夫婦を「おしどり夫婦」っていいですね。ちゃちゃい夫と大きな妻のことを「ノミの夫婦」といいです。夫婦でおかしなことばかり言って笑ってる夫婦を「漫才夫婦」といい、実際には関係が悪化しているのに、対外的には仲の良い様子を演じている夫婦を「仮面夫婦」というんですね。あはは。

今日、ご参拝の皆さん方は「おしどり夫婦」ばかりだと思っています。

11月22日は、「いい夫婦の日」。毎月22日は夫婦の日です。今日は21日で、明日は22日。夫婦の日です。私は、おひとりさまになってしまいましたが、まだご夫婦である皆様方はどうか、ご主人を労わって、奥様に感謝して、いついつまでもお元気で助け合って楽しく喜びの多い生活をして、せいぜい長生きしていただきたいと思います。

私は、おひとりさまです。東京大学の上野千鶴子教授が書かれた「おひとりさまの老後」という本がベストセラーになりました。おひとりさまの応援歌みたいな本です。これを参考におひとりさまを楽しく暮らしていきたいと考えています。

さて、2年後の立教175年4月8日の、大教会創立120年記念祭、6代会長就任奉告祭に向かって、「たすかりたいから たすけたいへ さあ、身近な人からおたすけを！」のスローガンの下に、身上の方にはおさづけを取り次ごう。事情で苦しんでいる人に耳を傾けよう。お互いを思いやる家族になろう。との活動目標に、勇んでつとめさせて頂いているお互いであります。

「おたすけお願いカード」であります。私はこのカードは、「陰徳カード」

だと思っています。陰徳を積むカードです。

私も毎日、神饌を済ませて、朝づとめまでの間に、おたすけお願いカードに、一人ひとりの顔を思い浮かべながらお名前を書かせてもらっているんです。病気の人、事情の人、願い事成就を望んでいる人、行方不明でどこで何をしているのか安否を心配している人、北海道の刑務所に服役している人などなど。毎日一人ひとり顔を思い出しながら、12 人の名前を書いてご守護をお願いしています。朝づとめでも同じように、一人ひとり名前と願いの筋を申し上げてお願いし、教会にいるときは、午後 2 時に、大教会と同じように、お願いづとめをさせていただき、夕づとめでも同じように、一人ひとり名前と願いの筋を言って、お願いさせていただいています。一日に 3 回は、お願いさせていただいています。蔭ながら病気の平癒を願い、事情の治まりを願い、願い事成就を祈念することは、誰にでもできることです。

陰でお願いすることはとてもいいことだと思います。特に私は、皆さんから見たらどこも悪くない、病気だなんて分からへんと言ってくれると思いますが、実際は、目に見えないからだの中で、右半身が強烈に痺れていますから、私は、目に見えないところで因縁の納消をさせて頂かないと運命がよくなると思っていますから、特にそう思うのかも知れません。

陰の徳を積む。陰徳を積むのは難しいです。人様のことでいいことをさせて頂いても「ありがとうございました」とお礼を言われたら、感謝し評価されたことですから陰徳にはなりません。

徳には大きく分けて「陰徳」と「陽徳」があります。その違いは「陰徳」は、

人知れず行われ、陰に隠れた徳であって、誰にも知られず、感謝されたり、ほめられたりしない徳です。「陽徳」は、その行いが人々に知られて「ありがとう」「素晴らしい」と感謝されたり、ほめられたりするような徳です。

徳積みの方には大きく分けると5つあると思います。

- ①ニッコリ笑ってと笑顔で人を幸せにすること。
- ②教会や町のお掃除、重い荷物を持っている人を手伝うなど。
- ③お金や物をお供えすること。
- ④布教して、真理を伝えたり、教え導くこと。
- ⑤優しい言葉で人を褒めたり、元気が出る言葉で勇気付けたりして、言葉で人を幸せにすること。

逸話篇 一一一 朝、起こされるのと

教祖が、飯降よしゑにお聞かせ下されたお話に、

「朝起き、正直、働き。朝、起こされるのと、人を起こすのとでは、大きく徳、不徳に分かれるで。蔭でよく働き、人を褒めるは正直。聞いて行わないのは、その身が嘘になるで。もう少し、もう少しと、働いた上に働くのは、欲ではなく、真実の働きやで。」と。

「朝起き 10 両、正直 5 両、働き 3 両」なんてことを昔聞いたことがあります。これはどの文献にあるのは調べたことはありませんが、昔聞いた言葉です。朝起きは、10 両の徳、正直は 5 両の徳、働きは 3 両の徳というものです。

誰にもほめられない、誰にも気づかれず、いいことをして、しかもよく働き、人を褒めることもセットになっているようですね。

陰徳を積むには、教会においてある「おたすけ・お願いカード」に、日ごろ気になっている身上や事情の人たちの顔を思い出して、その方の身上や事情がご守護いただけるように、しっかり活用されたらいいと思います。

ある方が言っていました。語呂合わせですが、
人は楽しいとき、ハハッと笑う ($8 \times 8 = 64$)。
人は悲しいとき、シクシクと泣く ($4 \times 9 = 36$)。
 $64 + 36 = 100$ 。

すなわち、この世の中は、楽しいことが64%あって、悲しいことが36%あるのが人生だと。

四苦八苦といますが。四苦八苦をたしますと ($4 \times 9 = 36$ $8 \times 9 = 72$ $36 + 72 = 108$) 108になります。108は煩悩の数であるとかいいます。事情で身上で苦しんでおられ方はたくさんおられます。しっかりこの「おたすけ・お願いカード」を活用させていただきたいと考えています。結局は、自分自身がたすけていただくカードになるかも知れませんよ。

心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず。此れを、身を修むるにはその心を正すに在り、と謂(い)う。

心の向きを陽気ぐらしの世界建設に向かって、ようぼくとして、道具衆として心を正すことにあると思っています。

いつものように、取り留めのないお話になってしまいましたが、要は、2年後の4月8日、大教会創立120年記念祭、6代会長就任奉告祭に向かう活動目標をお与えくださって、更なる成人を願ってくださっているこの旬に、心の向きは陽気ぐらしの世界へと向けて、その元となる夫婦がいつまでも仲良く、しっかりと陰ながら人様のたすかりを願って、「たすかりたいから たすけたいへ さあ 身近な人からおたすけを！」と、共々に勇んでつとめさせて頂きたいと存じます。

御清聴頂きまして、ありがとうございました。